

徴兵制と偶像崇拝に反対する言葉 ■

彼らはあなたに、「自分たちのために死ぬことが勇気」であり、「自分のために生きることが臆病」だと信じ込ませようとする。政治家は演説を作り、商人は武器を作り、奴隷は身体を差し出す。強制され、常に最前線へ。彼らは商売をし、あなたは死体を提供する。

幼少期からの像への敬意は、徴兵制と無意味な死への道を開く。崇拝される像は、必ず誰かが金を得るための嘘である。盲目的に崇拝する者がいる一方で、その盲信を商売にし、拡大させる者がいる。本当の臆病者は、疑問を持たずに殺される者だ。偽預言者はあらゆる罪を許す——ただし、自分で考える罪だけは許さない。欺瞞の影にある伝統は臆病者への終身刑であり、勇敢な者が断ち切るべき鎖である。それを知る者は少ない。偽預言者にとって、不正を非難することは、彼の教義を批判することよりも軽い罪だ。民が考えなくなると、詐欺師が指導者になる。偽預言者はこう言う：「神は悪人の不正をすべて許す...しかし正しい者が我々の教義を悪く言うことは許さない。」偽預言者にとって唯一許されない罪は、自分の宗教を疑うことだ。伝統と共に誇らしげに歩き、その前に跪く者は、必要な謙虚さを欠くため、真実へ歩むことはない。それは、さらに先を見通すということだ。彼らは像で意志を曲げ、人々を従順にして、他人の戦争へと行進させる。

徴兵制：臆病者は死体を集め、記念碑を欲しがる。勇敢な者は拍手を求めずに生き延びる。あまりにも多すぎる偶然。彼らはあなたに、「自分たちのために死ぬことが勇気」であり、「自分のために生きることが臆病」だと信じ込ませようとする。許してはならない。石膏の像には力はないが、他者を支配しようとする者たちの口実になる。像崇拝を促すことは、それで生計を立てる者たちの詐欺を助長することだ。すべてが最初から繋がっていたのではないだろうか？

戦争を宣言する者と、戦わされる者——その残酷な対比：民衆は理由も知らずに死に、望んだことのない土地のために戦い、子を失い、廃墟に生きる。指導者は安全な場所から条約に署名し、家族と権力を守り、地中壕や宮殿に住み、無傷で生き延びる。彼らはあなたの自由のためではなく、自分たちの戦争のためにあなたの命を求める。あなたを死なせる政府は服従に値しない。自分で結論を出せ。勇敢な者は、別の犠牲者にならぬために戦う。羊は血塗れの肉を嫌悪するが、仮面をかぶった詐欺師は興奮する。彼の魂は羊のものではなく、野獣のものだからだ。

狼の言い訳、理性によって暴かれる：「彼を裁くな、彼のために祈れ」と言うが、狼のために祈ってもその牙は消えない。「誰も完璧ではない」と言うが、完璧でなくとも犯罪者にはならないことはできる。

戦争ビジネスに必要なのはたった三つ：演説、武器...そして喜んで死ぬ奴隷。操作された精神と、犠牲に適した身体なしには戦争は成り立たない。像の前に心を屈する者

は、理由も告げられずに死ぬ理想的な兵士だ。宗教から戦争へ、スタジアムから兵営へ：すべては偽預言者によって祝福され、他人のために死ぬ従順な者を養成する。心を奴隷にするもの——歪められた宗教、武器、有料サッカー、旗——はすべて偽預言者によって祝福され、致命的な服従への道を開く。

<https://144k.xyz/2025/08/09/%e5%be%b4%e5%85%b5%e5%88%b6%e3%81%a8%e5%81%b6%e5%83%8f%e5%b4%87%e6%8b%9d%e3%81%ab%e5%8f%8d%e5%af%be%e3%81%99%e3%82%8b%e8%a8%80%e8%91%89/>

<https://youtu.be/WZuRplgrLjQ>